

資料 1

例外的な通学区域(校区)

例外的な通学区域（校区）

状 況	校数	主な理由	問 題 点
通学区域と学校の位置が離れている	小学校 0校 中学校 7校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校新設時に区域内に用地を確保できなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離が長い ・他校の通学路と輻輳する ・学校周辺の生徒は、近くても通うことができない
通学区域が2つの行政区にまたがっている	小学校 3校 中学校 6校	<ul style="list-style-type: none"> ・従来からの通学区域の中に、行政区境が設定された 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動やPTA活動などで煩雑な面がある
小学校の通学区域が複数の中学校区にまたがっている	小学校 11校 中学校 15校	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校新設時、学校規模や通学距離の観点から、小学校の通学区域を分断して中学校の通学区域を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・一方の中学校への進学者が極端に少ない場合がある ・小中連携を進める際に、小学校は複数の中学校と連携する必要がある。

春吉中学校の通学区域について 1

【学校の現況等】

所在地：南区清水4丁目21番50号

開校年：昭和22年

生徒数：548人（春吉小校区 79人）

学級数：15学級

校地：20,501m²

【校区の状況等】

小学校区：春吉小学校，玉川小学校，塩原小学校

校区面積：約3.01km²

校区人口：38,719人（H17国勢調査）

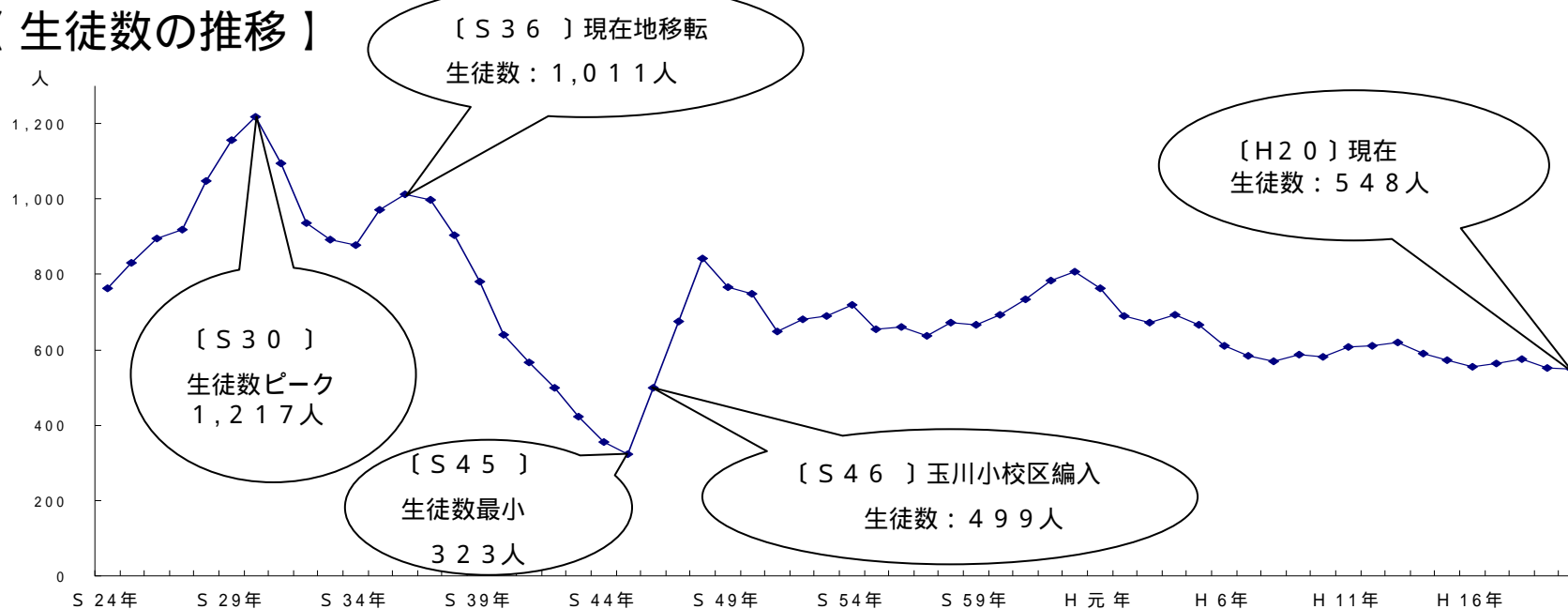
【通学の状況】

春吉小学校区からはバス通学（最長通学距離：約3.7km(西中州)）

玉川小学校・塩原小学校区からは徒歩通学（最長通学距離：約1.4km(大橋団地)）

春吉中学校の通学区域について 2

【生徒数の推移】



【沿革】

昭和22年：春吉小学校(現中央区春吉1丁目)校舎の一部を仮校舎として開校

昭和24年：薬研町(現 中央区天神2丁目)に移転〔校地：約9,969m²〕

昭和36年：現在地(当時：大字塩原820番地)に移転〔校地：20,501m²〕
(校地狭隘への対応・学校周辺の市街化の進展等による教育環境の悪化)

昭和46年：通学区域に玉川小学校を編入(学校周辺の生徒数急増に伴う)

昭和61年：塩原小学校開校(玉川小学校から分離)

春吉中学校の通学区域について 3

【課題等】

南区塩原の現在地に移転以降、春吉小学校区の生徒の大部分はバスにより通学。

玉川小・塩原小の編入に伴い、2つの行政区にまたがった校区となっている。

全校生徒に占める春吉小学校区の生徒割合は低下している。(14.3%)

【解決策とその問題点】

春吉小学校区内に中学校を分離新設 ←

用地確保が困難

新たに小規模校を造ることとなる

春吉小学校区を高宮中の校区へ編入 ←

中央区の生徒が南区の学校に通学することになる

春吉小学校区を警固中の校区へ編入 ←

通学距離が長い地域(約2.6km)が生じる(清川2丁目等)

住吉中学校の通学区域について 1

【学校の現況等】

所在地：南区清水1丁目8番4号

開校年：昭和30年

生徒数：202人(内 特別支援：11人)

学級数：8学級(内 特別支援：2学級)

校地：20,003㎡

【校区の状況等】

小学校区：住吉小学校・美野島小学校

校区面積：約 1.15km²

校区人口：18,528人（H17国勢調査）

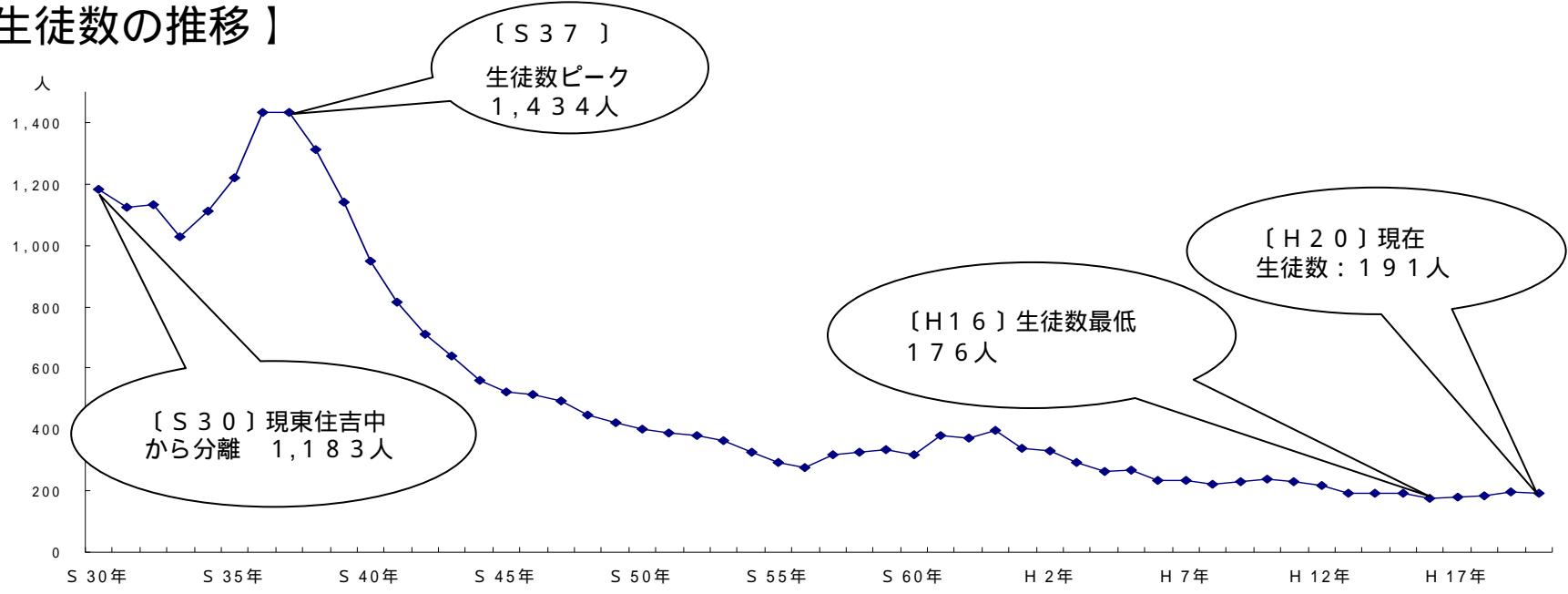
【通学の状況】

最長通学距離：約2.4km(住吉1丁目)

全員が清美大橋を渡り通学

住吉中学校の通学区域について 2

【生徒数の推移】



【沿革】

昭和30年：現在地で住吉中(現東住吉中)から分離開校〔分離前の住吉中：2,097人〕
(現住吉中学校開校前は、現東住吉中が「住吉中」と称していた)

昭和32年：美野島小開校(住吉小から分離)

昭和33年：用地拡張

住吉中学校の通学区域について 3

【課題等】

昭和30年の開校以来(区域内に適地が無かったため)区域外に設置
通学区域(校区)は博多区内だが,学校の所在地は南区である
校区が南北に長く,通学距離が長い地域がある
小規模校である

【解決策と問題点】

- 区域内に中学校を移転する ← {
・用地確保が困難
・小規模校の解決にならない
- 東住吉中と統合 ← ・通学時に全員がJR線を超える必要がある
- { 生徒数の増に伴い,住吉中(現東住吉中)から分離したが,両校共に生徒数が減少し,
小規模校化しており,二校を設置する理由が消滅している。 }